

## 2023 春季生活闘争

### 政策・制度 要求実現 3.7 中央集会開催

連合は3月7日（火）に開催し、JR連合と共に関東地区本部組合員も参加しました。当日はオンラインライブ配信も行い、合計2,472名（会場参加1,181名、オンライン参加1,291名）が結集し、「くらしをまもり、未来をつくる。」を合言葉に、回答引き出しに向けた決意を新たにしました。

主催者を体表して、芳野中央闘争委員長（連合会長）は、「要月例賃金改善を要求した組合数、および賃上げ要求の額・率とも昨年を上回っており、2014闘争以降、継続してきた賃上げの流れをここで一段ギアを上げ、ステージを変える転換点にしよう。春季生活闘争と運動の両輪をなす政策・制度実現の取り組みも非常に重要であり、取り組みを強力に推進していかなければならない。私たち働く者の活力、そして人への投資がなければ、日本の危機を乗り越えることは出来ず、団結して2023春季生活闘争に立ち向かっていこう」と力強く決意を述べられました。また、政党代表からの決意表明では立憲民主党泉代表、国民民主党玉木代表から力強い決意表明がありました。

集会では、現場からの訴えとして（有期・短時間・契約等で働く仲間代表）千葉県保育所等会計年度任用職員労働組合の鶴野美智子自治労千葉県臨時非常勤等職員協議会議長が職場の現状を報告するとともに、日本若者協議会理事の佐々木悠翔氏が、労働組合に対し「若い人にとって『頼れる存在』であり続けてほしい。職場環境の不満を安心して吐露できる・働く人にとって最も身近な社会である『会社』を変える経験を得られる・組合を通して広く政治や社会を変えることができる、という重要な役割を果たしてほしい」という期待を述べるとともに、「企業や組織が果たすべき最も大きな役割は、より多く質の高い『雇用』と『社会的結合』を生み出すこと」ではないかと呼びかけました。

その後、福田中央闘争委員が提起したアピール（案）を満場の拍手で採択し、最後に清水中央闘争事務局長のリードに合わせて「がんばろう三唱」を行い集会を締めくくりました。



立憲民主党 泉健太代表